



俵 万智選

並列につなぐ電池の明るさよ三十四年をきみと灯せり
東京都 富見井高志

【評】人生を共にすること、電池の並列つなぎにたとえた比喩が素敵だ。横に並んで助けあってきた二人。ストレートな詠嘆と具体的な数字が、まさに一首を明るくしている。

流された僕の言葉をAIの議事録だけは書き留めている
大和郡山市 本田 岳

【評】誰も聞きとめてくれなかった発言を、律儀に記録してくれたAI。AIの仕事には人間味がないと言われがちだが、こんな一面もある。

どこまでも続くと思っていたけれど線路は終わる
終着駅で
守口市 小杉なんぎん

【評】当たり前のことを言っているのだが「線路はつづくよどこまでも」の歌を重ねると、可笑しみとペーソスが漂う。

風立てば花それぞれに首振りて薔薇の会議はまとまりの無く
青梅市 諸井 末男

放課後のような寂しさ抱えつつ帰りのバスに灯り見ている
仙台市 小野寺寿子

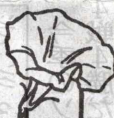
巣立つても帰ってきてほしいんだ子どもの布団
京都市 栗本 美桜

大玉のスイカざくりと切り分けて子が手にしたる夏の頂点
高島市 くらたか湖春

それぞれの羽の手入れをするようにヨガで肩甲骨を動かす
平塚市 風花 雫

ペラペラの私だけだががんばれば金魚二匹はきつとすくえる
大阪府 木村由里亜

縦書きに「君死にたまふことなかれ」じっと見ているチョコクの先端
太田市 木戸 健房



黒瀬 珂瀾選

マニユアルの想定にない出来事を本部に訊けば本部な返事
大和郡山市 大津 穂波

【評】実情を理解しないまま、現場を管理したがる本部。そのくせ、想定外の事態には曖昧な回答を寄越して、現場に責任を丸投げしてくる。不満を堪えて働く現場の本音です。

葬式代貯まったから死ねるんだって呟く人と突つくもんじゃ焼き
須賀川市 小針 望

【評】死を準備する友人の言葉にどこか寂しさを感じるひと時。今の日本人、死に際して家族に負担をかけたくないという思いが強すぎます。死ぬときくらい好きに死んでいい。

枝豆を見れば遠き日想い出す 箒いっぱい集まる家族
横手市 佐藤 ミサ

【評】ちゃぶ台などではなくて、「箒」に集まる家族という表現が面白いですね。枝豆も人間も同じ、寄り添うのが大切なのでしょう。

ツナ&たまごサンドは犇めいて結婚なんてたぶん勢い
横浜市 富尾 大地

試着して店員さんに見せるかを鏡のわたしと数秒悩む
鳥取市 中之島 潤

スーパの三千円のマンガーを買い占めてゆく
東京の友
日南市 宮田 隆雄

介護士は私の寝息を確かめてそと出てゆく深夜の病室
香取市 人見羽津江

あれもしたいこれもしたいと願ひつつ出来なかつた日は天井を食ふ
小美玉市 松山 光

何億も飢えているのに一兆ドルひとりで持つて幸せかしら
京都市 寺西 和史

定刻にカーテン開ければ東にあかね差しあてけふは雨かも
奈良市 上田 達夫

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、〇〇先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はしそのは